

## 事務局便り

第109号（令和6年6月）

【英霊に敬意を！日本に誇りを！】

近畿偕行会

### 巻頭言

今期は、年度の重要行事である「昭和殉難者法務死英霊追悼年次法要」並びに「総会」も滞りなく実施する事が出来ました。これも偏に関係諸氏のご協力の賜物であると感謝申し上げます。

本年度から、偕行社も「陸修偕行社」となりました。本会も「近畿陸修偕行会」となるのですが、当分の間（数年？）は従来と変わらない独立採算・業務運営となりましょう。

また今期は不順な天候で、やっと春がと思いきや、夏日が来、寒の戻りがあり、この分では鬱陶しい梅雨と猛暑が予想される夏の成り行きが心配になります。

小生初め老齢の方は特に健康に留意して乗り切り、生き抜きましょう！！（加賀本）

### 案内事項

#### 令和6度第2回理事会・特攻理事会

8月3日（土）大阪護国神社に於いて第2回理事会を、特攻理事会と合わせ実施予定です。

理事の皆様には別途ご連絡いたします。

担当 熊谷

#### 令和6度会費納入のお願い

会費は、近畿偕行会を維持し、活動を円滑かつ効果的に運営するための軍資金です。

本年度会費未納の方は、当会の財政的窮乏をご明察の上、108号に同封しておりました「近畿偕行会（00900-6-29358）用「払込取扱票」にて、メール連絡会員の方は、近畿偕行会（00900-6-29358）宛に、振込みの程、宜しくお願い致します。

担当 加賀本

#### 会員増勢のお願い

ご遺族・戦友が亡くなられて行く中、戦没英霊慰霊の灯を消してはなりません。国のため命を捧げた英霊に対する感謝を忘れ、祖国への誇りを持たない国民、その国は亡びると言います。

令和6年度（本年度）には、会員数は100名を割りこむ見込みです。

「英霊に敬意を！日本に誇りを！」をモットーとする崇高な使命を有する近畿偕行会を潰してはなりません。何としても盛り上げねばなりません。解決策は、一に、会員の増勢を図る他ありません。

◎帝国陸軍関係会員の皆様には、ご子弟、お孫さんを家族会員に！！

◎自衛隊OB会員の皆様には、同期生・後輩を正会員に！！子弟を家族会員に！！

◎本会の趣旨に共鳴する、身近にいる、志ある草莽の士を発掘し、賛助会員に！！

ご協力を衷心よりお願い致します。情報を頂ければ、事務局で対応いたします。 担当 加賀本

### 報告事項

#### 高野山昭和殉難者法務死英霊追悼年次法要

令和5年4月29日（月・昭和の佳節）13時30分から高野山奥の院「昭和殉難者法務死慰霊碑」前に於いて高野山真言宗管長・総本山金剛峰寺座主大僧正長谷部直道義猷下ご導師のもと、各寺院御導師の御出仕を頂き、年次法要を行いました。



英霊の鎮まれる昭和殉難者法務死慰霊碑

桜も咲き残り、新緑鮮やかな昭和の佳節の良き日、ご遺族・戦友、和歌山地方協力本部長 1 等陸佐 梶憲記殿、第 3 7 普通科連隊副連隊長 2 等陸佐 高尾知宏殿初め自衛隊関係者、国防会会員、志し熱き一般参加者の方々等多くのご参列を得て、盛大かつ厳粛に執り行うことが出来ました。



慰霊碑を守る会：築野富美会長の祭主祭文奉唱 特に「浦安の舞」等の舞奉納はご英霊御霊の荒ぶるお心を少しはお慰めする事が出来たかと思料いたしました。



舞奉納「浦安の舞」

天候も心配された雨も降ることなく無事終了しました。

本会からは守屋香代子様（故守屋啓氏ご夫人）がご主人の志を継いで友人を連れ参加頂いたほか、加賀本、盛田、熊谷、西川、小林、岸岡・小山が参加しました。

担当 加賀本・熊谷

## 令和 6 年度総会開催

5 月 2 5 日（土）1 0 時から、本年も、「KKR HOTEL OSAKA」最上階 1 4 F スカイバンケット「オリオン」で、太閤殿下の夢の大阪城 天守閣、帝国陸軍の確かな足跡の大阪第 4 師団司令部（現在は商業パビリオン）を見下ろしながら 4 6 名の参加を得て盛大に実施する事が出来ました。

ご来賓は以下の 2 0 名の方々でした。

葛木神社宮司（講師）	葛城 裕 殿
中部方面総監代理行政副長陸将補	宮崎 章 殿
第 3 師団長代理副師団長 陸将補	末田 毅 殿
中部方面総監部総務部長 1 等陸佐	森 孝義 殿
中部方面航空隊長代理 一等陸佐	坂本貴宏 殿
前衆議院議員	大西宏幸 殿
前衆議院議員	中山泰秀 殿
前衆議院議員	左藤 章 殿
参議院議員佐藤正久殿秘書	森 明子 殿
参議院議員石川博崇殿秘書	青木 正伸殿
元大阪府議会議員	西村日加留殿
日本人の心を伝える会会長	工藤 皇 殿
日本人の心を伝える会	池田 実 殿
日本会議大阪支部長	寶來扶佐子殿
関西防衛を支える会会長代理	菊池哲也 殿
特攻慰霊顕彰会理事	三浦時生 殿
国防を考える会会長	高橋忠義 殿
国防を考える会顧問	古沢 清 殿
京都偕行会会長	酒井 健 殿
姫路偕行会会長	福永正之 殿

行事次第及び概要は以下の通りです。

### 1. 総会

最初に、2 世正会員小林一朗殿（陸士 5 8 期 利外殿ご子息）の挨拶で開会し、事業報告・事業計画及び収支報告・監査報告・来年度予算を報告し、承認を得ました。

### 2. 陸上自衛隊中部方面音楽隊演奏

選りすぐり 7 名のプロムナード編成で、軍歌・戦時歌謡メドレー等の素晴らしい演奏と 菊川 2 曹のテノールの歌声に聞き惚れました。

また、各軍学校校歌演奏では、来賓の方々も含め「久しぶりに歌ったよ」という方も多く、若かりし往時を思い出しながら、腹からの大合唱で老いの血を燃やしました。



久々の校歌等の大合唱

### 3. 記念講演

講師には、我が国有史以来の名家葛城氏第134代の当主葛木神社宮司葛城裕殿をお招きしました。演題は、「金剛山とそのころ」でした。

富士山に次いで2番目に登山者の多いと云う「金剛山」、御講演を拝聴し、第37普通科連隊における部隊訓練・レンジャー訓練等で幾度となく登山、参拝した小生ですが、その来歴等深く知ることなく過ごして来た事を深く恥じ入った次第です。

金剛山剛友会HPによれば、「金剛山葛木神社に、葛城宮司の始祖からの系譜が残っている金剛山は、神武天皇につながる歴史があることで他に例のない山であり、特異な存在と言える。」とあります。

宮司は、幼稚園から高校まで金剛山頂の葛木神社から通学され、幼児期から自然の中で資質を涵養、昭和61年から葛木神社に奉職、奈良県・御所市等の団体役員、イージス艦「こんごう」後援会長等自衛隊にも協力頂いており、お嬢さまも海上自衛官と結婚されておられます。

興味深いお話は、昭和天皇以前は、神を降ろし奉りて現人神になり即位されたが、昭和天皇はそれを拒まれ、戦後の人間宣言を待つまでもな

く、神道的にも現人神ではなく人間として即位されたとか。以降の天皇も然りと。

金剛山は、金剛生駒紀泉国定公園の主峰で、大阪府側には楠木正成の遺跡、奈良県側には役行者の遺跡があり、頂上に葛木神社が鎮座し、一言主・後醍醐天皇・楠木正成がお祭りされているとの事 護良親王奉納と伝わる所蔵の太刀、国宝級の「景光」を特別にご持参、披露して頂きました。



葛木神社宮司葛城裕殿の講演状況

### 4. 懇親会

眺めの良い最上階14F（スカイバンケット「オリオン」）で開催、大阪城を眼下にする雄大な景色も魚に、KKR自慢のコース料理と共に飲み放題の美酒も楽しみ、歓談し、時間一杯、懇親の実を挙げました。



懇親会の一景（岸岡サトミ女史提供）

最後も、2世正会員久保田恵一殿（陸士59

期勲殿ご子息)による「万歳三唱」で締め、来年の再会を約して、無事終了しました。(加賀本)

## 会外行事参加報告・紹介案内

### 参加報告

#### 同期の桜を歌う会

今年も4月6日(土)13:00から満開の桜が咲き誇る大阪護国神社社殿横で「同期の桜を歌う会」が開催されました。

「今日、日本がこれまで復興、発展を遂げたのも、かつてこの歌と共に戦場に赴き、祖国のために青春をささげ、また多くの戦友があったおかげです。其の思いを込めて私たちが桜花の下に相集い、英霊と再会して、その御霊に心から感謝し、「同期の桜」を歌います」と、主催者側はその趣旨を掲げて参加を呼び掛け、それに応じ多くの声自慢、軍歌・懐メロファンが参加しました。

今年も当会から会長・太田・岸岡女史の3名が参加しました。

晴天に恵まれ、折から満開の桜咲き誇り、落花もなし、参加者一同、英霊に届けとばかりに、音程も何のその蛮声を張り上げて合唱していました。



英霊と共に大合唱

折から多くの花見客もあり、飛び入り参加し、また興味深げに聞き入っていました。特に若者、夫婦、子供連れ等も意外に多く、心強く感じました。

担当 加賀本

## 令和6年度「つつじを観る会」

4月20日(土)12時~13時40分の間、伊丹市にある中部方面総監邸に於いて令和6年度の「つつじを観る会」が実施され、会長・事務局長が参加しました。



和やかな歓談風景(中部方面隊提供)

5年振りに元の実施要領で一堂に会し中方防衛懇話会との共催で実施となったものです。(加賀本)

## 陸上自衛隊第3師団創立63周年記念行事

陸上自衛隊第3師団創立63周年・千僧駐屯地創設73周年記念行事が、5月19日(日)千僧駐屯地に於いて実施されました。

生憎の雨模様でしたが、師団改編後初の新編制・新装備による式典(観閲行進)・訓練展示が実施されました。

雨にも動じず、整然と行動する隊員たちの姿が頼もしく印象的でした。



雨の中整然とした観閲部隊

その後の懇親会は、旧知の友等との再会を喜び合う楽しい宴となりました。



楽しい宴の一景

駐屯地は一般開放され、出店、イベントは雨にもかかわらず賑わい、入場者も1万人を超えたとの事でした。 担当 加賀本

### 大阪護国神社春季例大祭

大阪護国神社春季例大祭が、5月20日に実施されましたが、不本意ながら諸般の事情により、参加できませんでした。

担当 加賀本・熊谷

### 国防を考える会第2回総会

4月28日(日) KKR HOTEL OSAKA で盛大に実施されました。本会から会長・事務局長・太田等有志が参加しました。

特に裏千家 千玄室 大宗匠の講演「日本を守る為に」は、御年101歳とも思われない弁舌爽やか、祖国の現状を憂う憂国の情溢るるお話に感動し、参加者一同、憲法改正・自衛隊を国軍へ・新国軍(現在は自衛隊)への全力支援の決意を新たにしました素晴らしい総会でした。

担当 加賀本・熊谷

### 関西防衛を支える会第27回総会

5月12日(日)大阪キャッスルホテルで盛大に実施されました。本会から会長・事務局長が参加

しました。

中部方面総監小林弘樹陸将の防衛講話「陸上自衛隊・中部方面隊の取り組みと能登半島地震災害派遣」があり、陸上自衛隊の現情勢下における対応と能登半島地震災害派遣の活動状況を具体的にお話し頂きました。また、喫緊の課題は隊員の募集問題との認識も新たにしました。

自衛隊に対する感謝の念と共に隊員募集への最大限の協力を決意しました。事後の懇親会も和気藹々大いに盛り上がりました。

担当 加賀本・熊谷

### 関西地区海軍関係戦没者追悼式

関西水交会主催の関西地区海軍関係戦没者追悼式が海軍記念日の5月26日(日)大阪護国神社に於いて開催されました。

海上自衛隊呉地方総監部幕僚長紺野海将補の防衛講話後、「海軍関係戦没者慰霊碑」前で厳粛に執り行われました。



慰霊碑献花情景

本会から加賀本会長が代表参加しました。

担当 加賀本

### 紹介案内

#### 新刊「定年自衛官再就職物語」

本会正会員の松田小牧女史(防大55期)の新著「定年自衛官再就職物語」が5月5日ワニブックスから発刊されました。

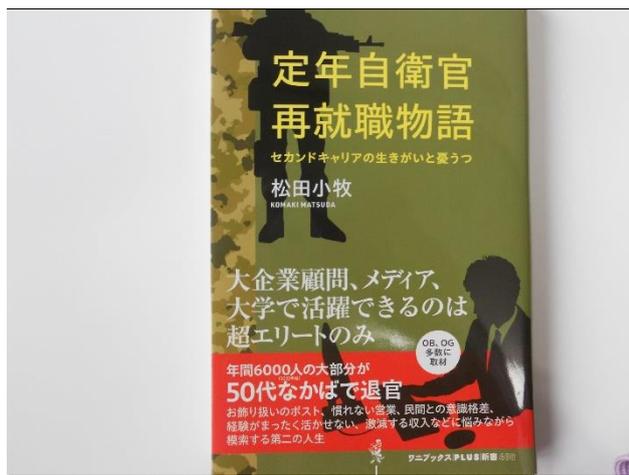
好評だった近著「防大女子」に続く好著です。年間数千人が50代半ばで定年、民間に再就職する。時事通信社で鍛えた記者魂を以て、多くの退職自衛官を直接取材、自衛隊と民間・・・、全く違う上司・部下の関係、危機意識のギャップ、傷つくプライド、無力感、生活の不安などに向き合った元自衛官達の挑戦。その明暗・本音とする所を抉り出している。

小生も退職自衛官の一人として、自らの体験、見聞を通じて納得するものが多くあります。

多くの国民に実情を知ってもらいものである。

そして多彩な人材の自衛官が、退職後もその特技を十分に生かし、世のため、人のために活躍できるようにになって欲しいものである。

ワニブックス PLUS 新書 408 定価 1100円です。ご購入協力支援をお願いします。



担当 加賀本

## 和歌山偕行会便り

4月11日(木) 「得意絶頂の時こそ危険！」

バイデン大統領から国賓待遇として迎えられた岸田総理は、テレビを通して観る限り自信に満ち溢れた表情をしています。しかし、得意絶頂の時こそ将来を洞察して慎重になるべきだと思います。かの田中元総理ですら、毛沢東や周恩来に手玉にとられ、ニクソンやキッシンジャーの思惑を考慮せずに米国に先駆けて日中国交回復をして仕舞いました。

その結果が、ロッキード事件を仕掛けられ田中元総理が失脚しました。今では、キッシンジャーの仕業であることが判明しています。

日米の軍事同盟強化等、岸田総理は国内であり話題にしていなかったのに、米国に行つてのこのアナウンスは、何なのでしょう？

米日韓首脳のカンパデービッドでの会談も同様です。米国向けには、こうアナウンスし、中共向けにはああアナウンスする。そんな二股外交や国家観・歴史観に欠けた首脳の言動は、やがて日本へのしっぺ返しとして跳ね返ってきます。

国民は迷惑千万です。

(前和歌山偕行会会長 奥野耕三)

## 編集後記

本年度の総会は、先輩方のお元気な姿を拝見でき、更には、司会小山みどり女史の機転により、「大先輩からの一言」があり、陸士59期余田和雄殿、大幼48期小谷剛造殿、仙幼49期田川康吾殿御三方の百歳近いとは思えない力強いご挨拶を聞く事が出来て大いに安堵致しました。

語らいも盛り上がり、懇親の実を上げられ、盛会裡に終わったのではないかとホッとしています。そろそろ梅雨の時候となりますが、会員各位におかれましては、健康にご留意をされて、ご健勝でお過ごし下さい。

(加賀本)

## 近 畿 偕 行 会

会 長 加賀本 昭雄

編集責任者 熊谷 勉

〒651-1513 神戸市鹿の子台北町3-1-4-201

Tel & Fax:078-952-3063

編集委員 加賀本 昭雄

〒664-0012 伊丹市緑ヶ丘2-97

Tel:072-785-8954

